

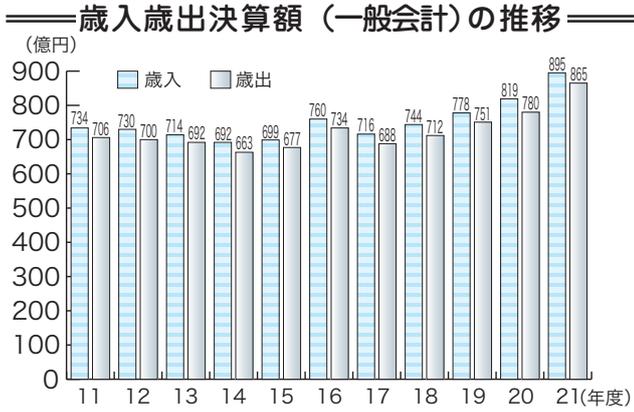


検証 富士市の財政は大丈夫？

市財政の特色

決算額は過去最高額

◆歳入歳出決算額（一般会計）の推移◆

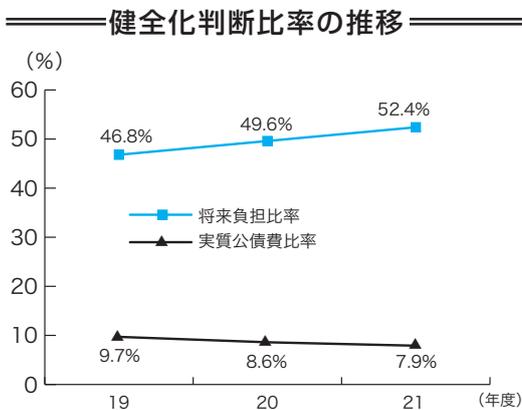


特色 1 財政力は高い水準を保っています ◆財政力指数◆



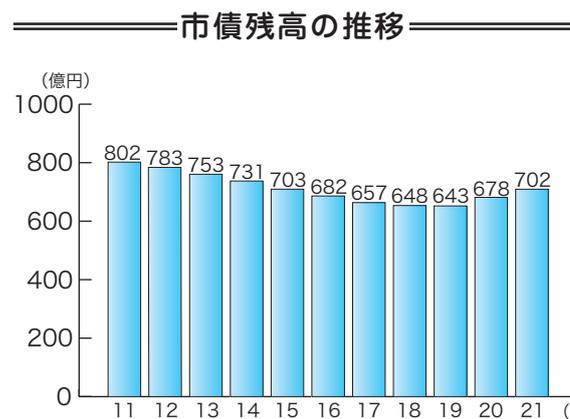
◆財政力指数◆

特色 2 財政の健全性は保たれています ◆健全化判断比率◆



◆健全化判断比率◆

特色 3 市税の減収を補うため市債が増加 ◆市債現在高◆



◆市債現在高◆

財政力指数は、**財政の豊かさ**を示す指標です。国が定めた基準の「必要行政経費額」に対し、市税などの収入の見込み額を比率で示した数値です。数値が「1」を下回ると、不足分が国から普通交付税として交付されます。毎年、全国で95%程度の市町村が普通交付税の交付を受けています。富士市は、平成11年度と12年度を除き、交付を受けていません。ただし合併の特例として、平成20年度から、旧富士川町分の普通交付税の交付を受けています。

健全化判断比率は、借入金の返済額や残高などから、自治体の財政の健全性を判断する4つの指標のことで、平成19年度から公表が義務付けられています。富士市は、歳入歳出の収支の状況を示す実質赤字比率と連結実質赤字比率は、黒字のため算定していません。また、借入金の返済額の大きさを示す実質公債費比率は7.9パーセント、将来負担の大きさを示す将来負担比率は52.4パーセントになっています。これは、早期健全化の基準である25.0パーセント、35.0パーセントを大きく下回っていて、健全な財政が保たれていることを示しています。

市債は市の借入金で、将来にわたって利用される道路や学校などの整備資金を、将来の世代にも公平に負担してもらうためのものです。家計でいうと、ローンに当たります。平成21年度末の一般会計、土地区画整理事業、墓園事業などの普通会計での市債残高の合計は702億円で、これに比べて約24億円増加しました。これは、景気後退による市税減収を補うため、臨時財政対策債の借り入れを行ったことなどによるものです。

★このような事業にお金を使いました★

平成21年度事業を一部紹介

民生費

●こども医療費の助成

4億9774万円
 小学6年生終了前の児童3万2655人が対象。延べ36万6551件に助成



土木費

●コミュニティバスなどの運行事業

4480万円
 ナイトシャトル・しおかぜなどの運行、Cバス・こぶしなどの実証運行



教育費

●青少年の船事業

6083万円



●消防活動費

1311万円

火災 100件発生。延べ1953人が出動

救助 144件発生。延べ2947人が出動

●防災無線整備

1億4623万円

緊急地震速報受信装置整備（中央病院・駿河荘など）
 同報無線のフルデジタル化など

衛生費

●予防接種事業

4億1474万円

BCG・新型インフルエンザ予防接種など、延べ12万2582人が接種



消防費

●消防車両整備事業

2億514万円



水槽付消防ポンプ自動車整備（吉永分署に配置）

3434万円

救助工作車整備（西消防署に配置）

9996万円

高規格救急自動車整備（富士見台分署・富士川分署に配置）

6058万円

総務費

●庁舎耐震補強事業

16億7398万円

●鷹岡まちづくりセンター建設事業

1億8227万円

●電話催告センター事業

1263万円

納税お知らせセンター開設

●ワンストップ総合窓口事業

1億643万円

証明書自動交付機設置など



問い合わせ
 財政課
 ☎(55)2725
 ☎(53)0909
 ✉zaisei@div.city.fuji.shizuoka.jp